

第62回関東甲越地区肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会 及び 校長会合同研究協議会『東京大会』が開催されます！

日時	令和8年7月25日（土）10：00～16：40
会場	東京都立光明学園
テーマ	「はじまりの地から未来へ～子どもたちの自立を支えるつながり～」
参加対象	P T A 会員の皆様

関東P連大会は、コロナ禍以降オンライン開催が続いていましたが、今回は久しぶりの参集型での開催となります！
都肢P連加盟15校が一丸となり、現在準備を進めています。

会員の皆さまは、参加費不要（昼食付）でご参加いただけます。
インターネットやSNSで簡単に情報が得られる今だからこそ、
実際に会って話すことで得られる気づきやつながりもあるはず。
「ちょっと覗いてみようかな」くらいの気持ちで、ぜひお気軽にご参加ください😊
大会HPや参加申し込みなど、最新情報は随時ご案内させていただきます。

会場となるのは東京都立光明学園。
とても開放的で広々とした校舎の様子、ぜひ動画でもご覧ください。

<https://youtu.be/dRjLMUa2q28?si=rQB474JvBs2St3Ne>



東京都肢体不自由特別支援学校PTA連合会 「予算要望書」って何？（後編）

7月に都庁へ行き、各部局・政党へお渡しした要望書を踏まえた懇談会・ヒアリングが実施されます。

- [8月] 各部局懇談会・都議会政党とのヒアリングの日程調整開始
部局懇談会・政党ヒアリングにて要望に込めた思いをお伝えるための原稿作成開始。
- [9月～10月] 懇談会・ヒアリングはできるだけ一日にまとめられるよう、1日2件から多くて3件実施。
準備した原稿を発言。先方からは要望書の内容についての質問があることも。
- [1～2月] 各部局から要望書に対する回答をいただく。
要望書係が内容をまとめ、各校PTA会員に共有。

都肢P連の大きな役割の一つである要望活動も、今年度は区切りを迎えました。東京都の各部局や各政党の皆さまが、それぞれの立場から丁寧に耳を傾け、予算確保に向けて日々尽力されていることを、あらためて実感する貴重な機会にもなりました。やりがいを強く感じる一方で、「もっとこう伝えられたのではないか」「もう少し準備ができたのではないか」と振り返る場面もありました。

しかし、この振り返りこそが次につながる力になるはず。課題があると知ったなら、小さなソーシャルアクションであっても行動あるのみ！と考えています。PTAに加入し活動を応援していただくだけでも、ソーシャルアクションの1つです。



声を上げ続けなければ、要望は“なかったこと”になってしまいますし、当事者を抜きに議論が進んでしまうことも避けなければなりません。来年度に向けた要望づくりは、すでに始まっています。児童・生徒の環境、そして学校現場がより良いものとなるよう、各校会長の思いを込めて丁寧にまとめてまいります。来年度の要望書も、ぜひご覧ください✧

鈴木校長先生のコラム

2026年1月19日付の日本教育新聞に掲載された、鈴木校長先生のコラムです。掲載許可を得て、皆様にも共有させていただきます。子どもたちや、教職員の皆様を想いながら日々お仕事をされる鈴木校長先生のご様子に、心が温まります◎

陽だまり

(58)

肢体不自由特別支援学校に勤務する私の朝は、スクールバスから降りてくる子どもたちを迎えることから始まります。「おはようございます」「行ってらっしゃい」。一人一人に今日も充実した一日になりますように、と願いを込めて声を掛けます。朝の授業や給食の時間には、できるだけ多くの子どもたちの元へ足を運ぶようにしています。言葉を掛けてくれる子どもは、目を合わせてくれる子ども、笑顔に向けてくれる子どももいます。どんなに小さな反応でも、その一つ一つが、心が通い合った証しのように思えるのです。

校内を歩いていると、日々子どもたちの変化に出合います。あいさつの声が以前より大きくなったり、荷物を持って歩くようになったり、給食を、前よりも一口多く食べられるようになったり、こうした小さな変化の積み重ねこそ、その子のペースで育まれていく学びの姿だと感じます。文字を書くことが楽しくな

子どもからの一通のはがき

り、ノートを飾らじげに見せてくれる子もいます。移動を助ける機器を使い、自分の力で移動できるようになって笑顔を見せてくれた子もいました。そうした姿に触れるたび、子どもたちが自分らしく成長していく尊厳を思います。

「学校は子どもの唯一の証しは変わる。元宮城教育大学学長の林竹二先生の言葉です。子どもたちが変わっていき姿に向き合った。この言葉が胸の奥で静かに響きます。「学び」は教室だけで生まれるものではなく、日々の小さな変化の積み重ねによっても生まれるものだ気がさせられます。先日、小学部の子どもから一通のはがきをもらいました。「いつもやさしく話をかけてくれてうれいす」と書かれていました。その言葉は胸に温かく広がり、子どもたちに寄り添う日々をこれからも大切にしたいと思わせてくれました。本校は子どもたちも教職員も、自分らしく生き生きと過ごして、安心して挑戦できる学校であってほしい。そんな温かな場を、これからも育てていきたいと考えています。

(鈴木愛・東京都立小平特別支援学校校長)



編集後記

ニュースレターも、今回が最終回となります。私自身、昨年度は小学校1年生の保護者として、娘と共に学校生活に慣れることに精一杯で、PTA活動に対してはどこか距離を感じながら過ごしていました。そんな中、7月に配布された東京都への予算要望書を目にし、「PTA活動って、こんなにも意義のあるものなんだ」と強く印象に残ったことを覚えています。ご縁があって執行部に加わり、「1年生の親だけれど、もしかしたら、できるかもしれない」と思い、会長をお引き受けしました。せっかくこの役目を担うのであれば、PTAの活動を少しでも知っていただき、身近に感じていただくきっかけになればと思い、ニュースレターの作成を続けてきました。これまで読んでくださった皆さま、本当にありがとうございました✧